

う。

底質と各種の分布の関係については、ササバモ、オオササエビモのように地下茎を地中に張る種は砂地に限られた。クロモは泥～砂地に現われ、コカナダモは砂礫地を好むというのも対照的であった。しかし、流速や水深と対応した種間の棲み分けは明瞭でなかった。

むしろ、水草のたくさん出る所にはどの種もそろって出現し、水草のない所には全くないという場所による偏りが目立った。そして、水草が多く見出された場所は、底質が安定した場所、増水の時、急流の直撃をまぬがれる所であることが確認できた。川の中央部よりも岸近くに水草が多いことも、流失しにくいことによるのだろう。

流量・水位の変化、底質の移動などに示されるように、河川は不安定な環境である。Haslam (1978) も述べているように、河川は水草にとって厳しい生活場所と言

わねばならない。そこでは、他種との競争よりも、川の不安定な環境の中で生活を続けてゆくための適応がまず第一に重要な問題となってくる。

水の動きは植物の代謝を促進するし (Westlake, 1975), 河川の酸素条件や炭酸ガス条件は、止水域よりも一般に良好である。それにもかかわらず川が水草の楽天地になり得ないのは、この環境の不安定さによるのだろう。環境の攪乱の性質をより具体的に調べること、川の水草がどのようにして個体群を維持しているかを明らかにすることが今後の課題である。

文 献

- Haslam, S. M. 1978. River Plants. Cambridge Univ. Press.
 Westlake, D. F. 1975. Macrophytes. "River Ecology" (ed. Whitton, B. A.) 106-128. Blackwell Scientific Publications.

水草栽培の楽しみ (一)

南 敦

色々な植物を栽培し、それらが育っていく過程をつぶさに観察することは口に言い表わせぬ無限の喜びである。まして、多くの稀少な植物が絶滅に瀕しつつある昨今、その"種"の保存のためにもきわめて重要である。筆者は多くの陸上植物と同様に水草も栽培しているので、そのうちのいくつかを紹介したい。

1. ジュンサイ 蓴菜 蓴 莖

昭和47年8月22日、長崎県五島列島福江島の翁頭池に非常に多数生育しているのを採集しもち帰って増殖したものである。山口県でも昔は多かったが、最近は非常に少なくなった。現在は山間部の古い、生活水の入らない池だけに残っている。しかし、栽培の場合ごく簡単である。バケツなどの容器に田土または畑土を入れ水を満たして植えておけばそれだけでよく育つ。時々鶏糞などを少量入れてやる。金バケツは2年ぐらいで錆が出るが5年は使えるし、ポリバケツも3年位は使える。勿論、焼き物の容器が一番よい。だ円形の、青々とした小さな葉が水面に浮かんでいる様はいかにも趣きがあって面白い。夏には大層涼しくも感じられる。花は気取った艶やかな形や色はもたないが、見れば見るほど味のあるもの

だ。日に日に伸びていく頃には若い葉や芽を摘んで吸物に入れ、その乙な味を十分たしなむこともできる。しかし、食べる方が目的なら庭隅に池でも掘って植えるのがよい。バケツの中でいっぱいになれば近所や友人に株分けし大いに喜喜んで貰える。"癌によく効く"と書いた本もあった。

2. アサザ 蓴菜 苳菜 一名ハナジュンサイ

昭和52年10月30日筆者が柳井市余田堀川で見つけたのが山口県での初記録。発見地にはかなり多い。しかし、中・四国ではきわめて稀なもので全国的にも稀だという。幕末に著わされた防長風土注進案の第一久賀村同補薬品之部に記載されていることから、昔は案外多かったのかもしれない。栽培は極めて簡単である。器に水と土を入れて植え込み、陽が十分に当たる所に置けばあっという間に器いっぱいになる。5月中旬から6月中旬までカボチャによく似た可愛い黄色花を毎日のぞかし楽しませてくれる。年によって真夏や秋でもかなり長く咲く。花冠裂片が5・6・7枚と変化に富むが、それはその花の歴史をひもどくためにも役立つものだ。筆者は細長いプランター、バケツ、ガラス水槽などに栽培している。コイの稚魚、アフリカツメガエルの幼生や小さいものなどを入れて飼うのも面白い。生育はまことに旺盛で日に日に葉芽をましていくのだから、それらをちょっと摘ん



ジュンサイ
栽培はバケツに水と土さえ入れれば育つのでから簡単(S. 55. 7. 20. 撮影)

で色々な料理にたしなむことも出来る。どんどん伸びる茎には数え切れない根が出ているので、株分けは極めて容易である。

3. ミズワラビ 水蕨

昭和52年10月3日柳井市古開作山口県立柳井高校傍の小溝の側壁のコンクリートに生育していたのを筆者が見つけたのが山口県での初記録。「日本シダ植物図鑑I」を見ても中国地方では稀な植物。カキツバタの植えてあるバケツにも植えているが、実験室内ではグッピーなどの熱帯魚を飼っている水槽に浮かせている。冬期は光がいっぱい当る所に、夏期は半日陰の所に置くのがよい。冬期は保温装置(ヒーター)を使用するのがよい。

これを使用すれば冬期といえども夏期と同様に無性芽でいくらでも増える。学校で多数栽培していて、胞子を



アサザ
5月中旬～6月中旬は殆んど毎日開花する
(S. 54. 5. 18. 撮影)

たくさん生じるためか、付近の溝、ハス田などにもしばしば見かける。しかし、害草になるほど多くはない。水槽で増えたものを御浸しなどしてみたが中々乙な味だ。

4. シチトウ 七島 一名シチトウイ リュウキュウイ

昭和52年10月11日柳井市古開作の国道傍の溝に生育していたのを持ち帰りバケツで栽培している。以前は山口県でもあちこちに生育していたといわれるが、現在は私の見つけた場所を含めて土木工事等のために殆んど絶滅してしまった。花柄の広がった花序はしばしば温室に植えられている。パピルス以上に美しいし、その茎は強く小細工には結構役立つ。バケツの中でよく殖えるので“種”の保存のためにも多くの方に分譲している。

5. デンジソウ 田字草 蕨 一名タノジモ カタバミモ

私の小さい頃にはあちこちの田でよく見かけたものだ。現在は全く見ることは出来ない。昭和48年8月23日生徒の家庭訪問の時、下松市豊井の昔からのハス田にどうにか生き残っていたのを採って来て育てている。容器に土と水を入れ湿地の状態にして植えればどんどん殖える。“四つ葉のクローバー”に似ているので女生徒達がよく気をつけて見てくれる。“種”の保存のためだけでなく、その胞子のうは分類や進化の説明にも役立つので筆者の休耕田にも植えている。



ミズワラビ
バケツの泥中で育っているもの。葉は殆んど胞子葉ばかり(S. 55. 8. 20. 撮影)